
ポケットモンスター A G のポケモンで逃走中

スィーナ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ポケットモンスターAGのポケモンで逃走中

【Nコード】

N0739S

【作者名】

スリーナ

【あらすじ】

ポケモンアニメAGのサトシたちのポケモンが逃走劇を繰り広げる。生き残るのは……ダレだ……？

前回投稿していた小説が、何かマニュアルに違反していたらしいので、変更しました。申し訳ございません。

逃走ポケモン紹介（前書き）

逃走するポケモンの紹介です

前回は本当に申し訳ございません。

逃走ポケモン紹介

サトシのポケモン

ピカチュウ	スピード：やや速い	ミッション：積極的
オオスバメ	スピード：凄く早い	ミッション：積極的
ジュカイン	スピード：凄く早い	ミッション：積極的
ヘイガニ	スピード：普通	ミッション：凄く積極的
コータス	スピード：遅い	ミッション：消極的
オニゴーリ	スピード：普通	ミッション：気分しだい

ハルカのポケモン

バシャーモ	スピード：速い	ミッション：積極的
アゲハント	スピード：普通	ミッション：気分しだい
エネコ	スピード：普通	ミッション：積極的
フシギダネ	スピード：やや遅い	ミッション：消極的
ゴンベ	スピード：やや遅い	ミッション：気分しだい
カメール	スピード：普通	ミッション：消極的
グレイシア	スピード：速い	ミッション：凄く積極的

タケシのポケモン

ヌマクロー	スピード：普通	ミッション：積極的
ウソッキー	スピード：普通	ミッション：積極的
ルンパッパ	スピード：普通	ミッション：積極的

逃走ポケモン紹介（後書き）

次回はルール説明です。

ルール説明（前書き）

ルール説明です！！

ルール説明

今回は、レインボー王国で逃走中を行います。

レインボー王国は、城、城下町、ブルータウン、グリーンタウン、イエローシティー、ホワイトシティーがある。

ブルータウンは、港町。グリーンタウンは植物が多い町。イエローシティーは機械が多い電気仕掛けの町。ホワイトシティーは穏やかな町。

賞金は1秒100円ずつ上昇。制限時間は3時間。逃走成功すると、108万円を手に行ける。

自主は公衆電話で申告。

王国には、ポケモントレーナー、ポケモン、ミッションに関係する人たち（今は秘密）がいる。

ちなみに、ポケモンたちは、普通にしゃべります。

ルール説明（後書き）

次回から逃走中がスタートします!!

ゲームスタート!! (前書き)

いよいよゲームが始まる!!
キャラ破壊注意です。

ゲームスタート!!

城下町……夜明け前の王国に、16匹のポケモンが集められた……。

アナウンス「これより、ゲームを始める。目の前にあるスイッチは、押すと2秒、30秒、1分、2分のタイマーのどれかが作動する。タイマーが0になるとハンターが放出される。なお、ボタンを押すのは、先ほど抽選でマークの付いていたカードを引いたポケモンだ。なおハンターは3体だ。」

ピカチュウ「僕?!」

グレイシア「頑張れ。」

ピカチュウ「どれにしよう……。」

エネコ「ねえ、ハンターくすぐってみたいんだけど。」

フシギダネ「あなたただだよ……。そんな事思いつくの……。」

オオスバメ「べつ、どれ引いても誰も恨まないだろ。」

ジュカイン「オオスバメに同意。」

バシャーモ「2秒押しても確実に逃げれるのはあんただけだよ。」

ヌマクロー「普通にデオキシス（スピード）と戦ってたもんね……。」

ピカチュウ「それじゃあ……。1番左にするね。」

ウソッキー「はい。」

ピカチュウ「そりゃ!」

ぼち

ピピピピピピピピピピピピピピピピ

ハンター放出まであと30秒・・・

ピカチュウ「短いなー・・・ってカウントダウン始まってる!!」
コータス「逃げなきゃ!!」

全員エリアへ散らばった。

ゲームスタート!! (後書き)

はじまりましたね。どうなるかなあ。

オープニング要員（前書き）

前回書き忘れましたが、技はハンターに当てなければ基本OKです。

オープニング要員

ハンター放出まで・・・

1
0

9

8

7

6

5

4

3

2

1

0
・
・
・

プシュー・・・ハンターが放出された・・・

ピカチュウ「始まったー!!」

フシギダネ「あまり遠くに逃げられなかったなあ・・・」

ウソッキー「けっこう広いなあ。この逃走エリア・・・」

ウソッキー「近づく・・・黒い影・・・」

ウソッキー「どこに隠れよう・・・って・・・来てるー!!」

ハンター 「!!」

見つかった……

ウソツキー 「ワアアアアア!!」

ハンター 「……………」

……………パン……………

ハンター （確保完了……）

ウソツキー 「速いよ、ハンター!!」

ピリリリリリリリリリ

グレイシア 「何？誰か捕まったのかな？」

ヘイガニ 「城下町南部にて、ウソツキー確保……………って早

?!」

オオスバメ 「城下町南部って……………まだ城下町にいたのか?!」

バシャーモ 「30秒でここまで来て疲れないのはあんなだけだつて

!!」

オニゴーリ 「後はジュカインぐらいだろ……………」

その頃……………ブルータウンでは……………

船長 「何?!ガソリンが足りなくなっている?!」

副船長 「は……………はい!!なぜか1時間前より減っているんで
す!!」

船長 「どうする……………お客様を待たせるわけには……………」

チーフパーサー 「イエローシティーに問い合わせたところ、ガソリンを準備できるそうです!!」

船長 「本当か?!良かった……………」

ゲームマスター 「……………」

モニター画面で港の様子を見るゲームマスター……………。パネルをスライドし、あるボタンを押した……………。

客船に、10個のハンターボックスが出現した……………。

ピリリリリリリリリリリ

ジュカイン「メール?」

アゲハント「ミッション??!」

ミッションの内容は?!

現在の状況	ハンター3体	残り時間2時間50分	賞金6万円
-------	--------	------------	-------

オープニング要員（後書き）

ミッション？の内容は何でしょう？予想してみてくださいね。

パート1（前書き）

ミッション？の内容は？！

パート1

ミッションの内容・・・・・・・・それは・・・・・・・・

ピカチュウ「ブルータウンの客船に10個のハンターボックスが設置された。」

オニゴリ「残り時間2時間25分になるとハンターが放出される。」

エネコ「このハンターボックスは封印することができない。」

カメール「ただし、客船が発射すれば、逃走エリアには入っていない。」

ヌマクロー「しかし、ガソリンの一部が減って出発できなくなっている。」

ルンパッパ「ハンター放出までにイエローシティーのガソリンスタンドからガソリンを持っていけば、」

オオスバメ「客船を発射することができ、エリアのハンターは増やさねずにすむ。」

ミッション？

ブルータウンの客船に、10個の封印不可能なハンターボックスが置かれた。残り2時間25分になると、放出される。ただし、客船が発射すればエリアに放たれる事はない。しかし、ガソリンの量が減って客船は出発できない。イエローシティーのガソリンスタンドからガソリンを持っていけば、客船を発射することができる。

ジュカイン「イエローシティーか・・・・・・・・行くか！」

オオスバメ「近いな．．．．行くしかないな！！」

グレイシア「行くに決まってる！！」

ピカチュウ「さすがに10体は辛いよ！！」

ヘイガニ「イエローシティーってここじゃん！！行くよ！！！！」

この5人はミッションに向かうようだ。

バシャーモ「オオスバメ行くの？」

オオスバメ「近いから行くだろ！普通！！」

バシャーモ「．．．．．それってつまり．．．．．」

オニゴーリ「．．．．俺達も一緒に来いと．．．．？」

オオスバメ「行きたくないなら別にいいけど、来るやつは予想できるから。」

バシャーモ「たしかに、グレイシア、ミッションは全部やるって言
ってたっけ．．．．」

オオスバメ「それじゃ！」

バシャーモ「行つてらっしゃい。ここまで全力疾走だったのに．．．
。」

オニゴーリ「疲れてないって．．．．」

フシギダネ「ミッションなんて怖くていけないって！！無理無理！
！」

ハンター「．．．．．」

フシギダネ「大体、何でミッションなんてあるの？！」

ハンター「．．．．．！！！」

フシギダネ「ミッションなんて戦場カメラマンみたいなものじゃない
い．．．．．って来てるー！！！」

ハンター「・・・・・・・・・・・・・・・・」

パン

ハンター（確保完了）

フシギダネ「あゝ・・・・つかまった・・・・・・・・。」

ピリリリリリリリリリリリリリリ

バシャーモ「フシギダネ確保・・・・・・・・つかまったんだー。」

現在の状況	ハンター3体	残り時間2時間45分	賞金
-------	--------	------------	----

9万円

パート1（後書き）

ミッションはどのような・・・？

パート2（前書き）

ミッションはどうなるかなー？

パート2

ミッション終了まで残り20分。間に合うのか………？

グレイシア「ミッションは行つとくべきでしょう！…！楽しいし、プラスになるし！…！」

フシギダネとは間逆の思考のグレイシア。近くに………黒い影………

グレイシア「ハッ！まずい……ハンターいる！…！」

ピカチュウ「え、うそ？！」

ハンター「………」

グレイシア「隠れなきゃ……。」

幸い、ハンターは気づいていない。

グレイシア「あ、向こう行つた。じゃ、ミッションに行こー！…！ピカチュウ「イコオオオ！…！」

ヘイガニ「あ、ガソリンスタンド発見！…！」

ヘイガニがガソリンスタンドに到達。

ヘイガニ 「すみませーん。ガソリン届けるために来たんですが・・。」

定員 「はいはい。了解です。わざわざありがとうございますー」

ヘイガニ 「おねがいしまーす。」

店員 「あー!」

ヘイガニ 「はい?」

店員 「ごめんなさい!たくさんガソリンケースあるよ。」

ヘイガニ 「いくつですか?」

店員 「5つ。だけど危ないから1人1つづつにしてもらえる?」

ヘイガニ 「はい。」

店員 「はいはい。ちょっと待っててね。」

ヘイガニ 「やばいな・・・?」

ヘイガニはケータイを取り出し・・・・・

ピリリリリリリリ

ピカチュウ「?」

ピカチュウに電話をかけた

ピカチュウ「はい?あ、ヘイガニ?どうしたの?」

ヘイガニ 「ミッション行く?」

ピカチュウ「いくよ、あと4分もすればガソリンスタンドにつく。」

ヘイガニ 「他に誰がいるか?」

ピカチュウ「グレイシアがいるけど・・。」

ヘイガニ 「なんか5つにガソリンが分けてあつて、1回に1つづつ運ばなくちゃいけないらしい。」

ピカチュウ「エエエエエエ?!じゃあ、あと2人?!」

ヘイガニ 「そうゆうこと。」

ピカチュウ 「わかった！！誰か見つけたら誘つとくよー！！」

店員 「はい、ガソリンです。」

ヘイガニ 「あ、ありがとうございます。」

ヘイガニは店の外に出たが、

ヘイガニ 「小さいのに重？！これ1個じゃなきゃ運べないって！！」

オオスバメ 「着いた！！」

ジュカイン 「あ、オオスバメ。やっぱり来たか。」

オオスバメ 「ジュカインもやっぱり来たんだ。」

ヘイガニ 「お、お疲れ！！」

オオスバメ 「早いな、ヘイガニ。」

ヘイガニ 「まあな！！それじゃあ先行つてるぞ！！」

ジュカイン 「すみません。」

店員 「はいガソリンどうぞー！！」

オオスバメ 「ありがと………って重？！」

ジュカイン 「おい、飛べるのか？」

オオスバメ 「根性！！」

ジュカイン 「……………がんばれ……………」

牢獄

ウソツキー「開始早々つかまったよ。」

作者「お疲れさん。クッキー焼いたから食べてー。」

フシギダネ「ありがとう。」

作者「それじゃあ、私は借りてきたDVD見てるから。用があつたら呼び出しボタン押してね。」

ウソツキー「何見るの？」

作者「映画ハートキャッチプリキュア 花の都でファッションショー・・・ですか？ だよ。」

2匹「?!」

ウソツキー「劇場で見たんじゃあ・・・」

フシギダネ「とゆつか・・・もう中2でしょう?!」

作者「本当なら映画プリキュアオールスターズDX3が見たいんだけど・・・」

ウソツキー「先週金曜&日曜に映画館で見たじゃん。」

フシギダネ「オールスター、あと何回見たら気がすむの？」

作者「10回。」

2匹「・・・・・・・・・・・・・・・・」

作者「じゃあね。」

フシギダネ「う・・・・・・・・うん・・・。」

作者「Yes プリキュア5 Gogo! みんなの応援が待ってる さあ進もう叫ぼういっしょに!」

ウソツキー「歌ってるよ。プリキュアの歌を・・・・・・・・・・」

ブルータウン

エネコ「この船が・・・うわあ、ハンターボックスがたつくさーん!!!おもしろーい!!!」

危機感0だ・・・。

パート2（後書き）

次回はどうなるだろう。

それじゃあ、プリキュア見てきます。（本気）

パート3（前書き）

やっと更新できた！！

遅いよね自分・・・。

パート3

ミッション終了まで残り10分・・・

ピカチュウ「やっと着いたけど・・・。。。」

グレイシア「結局誰も見かけなかったね・・・。」

店員「あ、ガソリン届けにきたの？」

ピカチュウ「あ、はい!!」

店員「ああやっと全部運んでもらえる・・・。」

グレイシア「は？」

ピカチュウ「今なんて・・・？」

店員「あ、いやね、ガソリン全部で5つあるんだけど、内3

つつは運んでもらったから・・・。」

ピカチュウ「ということは・・・。」

グレイシア「誰か2匹、行ってくれたのね!!」

店員「はい、ガソリンです。」

ピカチュウ「ありがとうございます!!」

ブルータウン

ジュカイン「・・・オオスバメ?大丈夫か？」

オオスバメ「根性で乗り切る!!」

ヘイガニ「しかし・・・その状況でよく俺に追いつけたな。」

オオスバメ「だから根性あったら何でもできるんだよ!!」

2匹「・・・。」

ジュカイン「まあ・・・イエローシティーとブルータウンが隣でよかったんじゃないか？」

ヘイガニ「ああ・・・、ってなんだかんだ言っているうちに到

着………つてあれエネコか？」

エネコ 「あ、みんなー ヤッホー!!」

ヘイガニ 「声がでかい!!」

オオスバメ 「あはははは………。」 (汗

船長 「あ、ありがとうございます!!」

乗組員 A 「助かりました!!」

ジユカイン 「あと2匹……誰か向かっているのか？」

ヘイガニ 「ピカチュウとグレイシアがミッションに行くって言う
ていたけど。」

オオスバメ 「あの2匹なら大丈夫だろう、」

エネコ 「ねー、あのハンターくすg」

ヘイガニ 「やめてくれ……」

イエローシティー……

ピカチュウ 「急がないと……つてあと5分？」

グレイシア 「これ重たいし……間に合うかな？」

ピカチュウ 「はあはあはあはあ………。」

グレイシア 「あ、ブルータウン!!」

しかし………

ピカチュウ 「ハンターだ!!隠れて!!」

グレイシア 「何でこんな時に来るのよ?!」

ピカチュウ「ぜんぜん動かない．．．。」
グレイシア「どうしよう．．．．．」

ミッシヨン残り2分30秒．．

ピカチュウ「まずい．．．．．時間が．．．」
ハンター「．．．．．」
．．．．．」

グレイシア「強豪突破は無理そうだし．．．。」
ハンター「．．．．．」

ピカチュウ「あれ？無効に走って行っちゃった？」

グレイシア「誰が見つかったのかな．．？だけど．．．今がチャンス！！」

ピカチュウ「いそげ！！」

残り時間．．1分．．．

グレイシア「時間が．．．．．」
ピカチュウ「無い．．．．．」

残り時間30秒．．．．．

グレイシア「ね．．．え．．．、」
ピカチュウ「な．．．．．に？」

グレイシア「今思ったんだけど・・・ガソリン入れるのって何分かかるの？」

ピカチュウ「え？」

グレイシア「ガソリンが間に合ったとして・・・もし入れるのに時間かかったら・・・。」

ピカチュウ「あ・・・でも届けたほうがいいって！！間に合うかもしれないし・・・！！」

グレイシア「・・・そうだね！！」

残り時間15秒・・・

ピカチュウ「はあはあ・・・つ・・・ついたあ。」

船長「あ・・・ありがとうございます！！」

副船長「助かります・・・。」

船長「よし！！出発だ！！」

ピカ&グレ「は？」

ポーポーポー

客船は出発していった・・・。

ピカチュウ「ガソリン入れてくない？」

グレイシア「う・・・うん・・・。」

港の人「あ、あれは多分予備だと思うよ。」

ピカチュウ「ああ、なるほど・・・。」

グレイシア「あきらめなくてよかったあ・・・。」

ピリリリリリリ

ピカチュウ「ミッション連絡？速くない？」

グレイシア「あれ？これって・・・確保情報じゃん！！」

ピカチュウ「もしかして・・・さっきの？」

約1分30秒前・・・

ルンパッパ「ミッション行きたかったけど・・・往復大変だし・・・
・てかもう時間ないし・・・。」

ハンター「・・・・・・・・・・・・・・・・！！」

ルンパッパ「・・・・・・・・ってハンター?!」

距離が・・・近かった・・・

パン

ルンパッパ「あーあ・・・。」

で、現在

ピカチュウ「タケシのポケモンつかまるの速い・・・。」

ピリリリリリリ

カメール「あ、ミッション情報・・・。」

ヌマクロー「ミッションクリア!!!!良かったー!!!」

バシャーモ「やっぱり成功したんだ、オオスバメ……。」

パート3（後書き）

ミッション1短かった・・・

パート1（前書き）

ミッション2が幕を開ける

パート1

城下町 刑務所

k 「そうか・・・そんなことが・・・。」

冬来雪亜 「はい。客船のガソリンが減っていたそうです。」

ダークピカチュウ 「近くにいたからビックリしたよ・・・。」

k 「何があっただろう・・・。」

冬来雪亜 「いやな予感します・・・。」

k 「とりあえず、次の会議で皆に言っておくよ」

ダークピカチュウ 「よろしく。」

??1 「フッ・・・犠牲者が多いほうが盛り上がると思ったが・・・
・・・客船を出してしまった。」

??2 「・・・しかし休憩している暇はありません。」

??1 「ああ・・・、次の作戦の用意はできたな・・・？」

??2 「はい。すでに仲間が実行しているはずですよ。ついでに邪魔なやつらの始末もおきます」

??1 「そうか。ご苦労。」

グリーンタウン

??3 「それじゃあ・・・やりましょうか・・・。」
??4 「ああ・・・。」

ピピピピピピピピ・・・

ゴゴゴゴゴゴゴゴ・・・

??3 「フフフフフフ・・・。」

??4 「ハハハハハハ・・・。」

2人 「全てはあの方の為に・・・。」

グリーンタウンの中に時空の穴が開いた

アゲハント「・・・何の音？」

偶然グリーンタウンにいたアゲハント・・・

アゲハント「ハッ?!」

パルキア「・・・。」

アゲハント「パ・・・パルキア?!うそ・・・でしょ?」

ゲームマスター「・・・。」

市民3 「ああ……どうなっているんだ……?!」

ゲームマスター「…………アノ鎖は以外に硬いな…………そ
れなら…………。」

ゲームマスターは逃走者にメールを送った……
ゲームマスター「これなら壊れるはずだ…………。」

パート1（後書き）

追加ミッションとは・・・？

パート2（前書き）

やっと更新

パート2

ピリリリリリリリ……

オオスバメ「なんだ？誰か捕まったか？」

ジュカイン「ペース速くないか？」

オオスバメ「何々……？って追加ミッション?!」

ジュカイン「不都合でもあったのか？」

ピカチュウ「赤い鎖が思いのほか硬いようなので、」

又マクロー「そのままでは壊せないと思う。」

エネコ「なので、『プラスパワー』か『スペシャルアップ』を使う必要がある。」

バシャーモ「なおその2つはそれぞれの役場に有る。」

オオスバメ「つて、ただ単に移動距離伸びただけじゃんか……。

」

ジュカイン「いや、」

オオスバメ「ん？何か裏でもあるのか？」

ジュカイン「そうじゃなくて、」

オオスバメ「？」

ジュカイン「役場そこ。」

オオスバメ「あ……」

素で気づいていなかったらしい……

だがこれは二匹が考えているものより過酷なミッションだった……

何故なら……

グリーンタウン

アゲハント「役場へ行きたいけど……パルキアが攻撃してる……このまじや周りの皆が危ないし……」

パルキア「悪いが……」

アゲハント「え？」

パルキア「お前たちは邪魔だ……消えてもらっ！」

アゲハント「ええ?!き……キヤアア!」

ピカチュウ「十万ボルト!」

パルキア「?!」

ピシッ

赤い鎖にヒビが入った

ピカチュウ「アゲハント!大丈夫?!」
アゲハント「え……ええ……。」

ピカチュウ「スペシャルアップ取ってきたから！はい。」
アゲハント「ありがとう！」

パルキア「貴様……」

ピカチュウ「あ、やっぱり今のじゃ駄目か……。」

パルキア「覚悟！」

アゲハント「銀色の風！」

パリーン

赤い鎖が完全に割れた……

パルキア「はっ！……私は何を……？」

ピカチュウ「やった！」

アゲハント「ピカチュウが来てくれなかったら危なかった……ありがとう。」

ピカチュウ「ミッションだもん、やらなくちやね」

パルキアは帰って行った

しかし……ほっとしたのもつかの間……

ディアルガ「イヤッハー！暴れてやるぜ」

ピカチュウ「早っ！てかパルキアと性格違いすぎない？」

アゲハント「パルキアは冷静、ディアルガは暴走って感じね……」

ピカチュウ「とにかく……十万ボルト！」

……が、

ピカチュウ「うわ、さっきよりも固い……」
アゲハント「ヒビさえ入ってない……」

ディアルガ「時のほうこう！」

ドガン！

ピカチュウ「まずい……また役場行かなきゃ。」

アゲハント「今度はもっと持って行った方がいいよね、私も行くわ
！」

ディアルガ「行かすか……！」

ピカチュウ「ヤバイ！」

アゲハント「攻撃される？！」

パート2（後書き）

ピカチュウ&アゲハント

ピンチ！

パート3（前書き）

ピカチュウ&アゲハントの運命は？

パート3

ピカチュウ「ヤバイ！」

アゲハント「攻撃される！」

オオスバメ「ツバメ返し！」

ジュカイン「リーフブレード！」

パリーン！

ディアルガ「あれ？俺何やってんだ？」

ピカチュウ「危なかった。」

アゲハント「セーフ……。」

ピカチュウ「ありがとう……ジュカイン、オオスバメ。」

オオスバメ「間に合って良かった。」

ジュカイン「それにしても……危ないことする奴等だな……。」

グレイシア「おーい！みんなー！！」

ピカチュウ「あ、グレイシア！」

グレイシア「今のところどう？」

ピカチュウ「とりあえず2匹撃破。」

オオスバメ「いや、倒してないから……。」

その頃、グリーンタウンの反対側では………

ヘイガニ 「ティヤー！」

バシャーモ 「ハッ！」

コータス 「ヤー！」

パリーン！

ギラティナ 「あれ？何やってんだ？俺？」

バシャーモ 「なんとか壊せた。」

ヘイガニ 「疲れた。」

牢獄でトーク

ウソツキー 「あーあ、暇！」

フシギダネ 「本当。」

作者 「ヤッホー！」

フシギダネ 「まだ呼んで無いよ。」

作者 「いやあ、ちょっといろいろあってもうこっちは絶対来れないから。連絡しに来た。」

ウソツキー 「本当だ、呼び出しぼたん無くなってる。」

作者 「じゃあ頑張つてね」
ルンパツパ「僕達もう頑張る必要無いんだけど……」

速くも三匹のポケモンを解放させた逃走ポケモン達……
しかし最後の一匹が悲劇を起こすとは知るよしも無かった……

アルセウス「……………フフフフ……………」

ピカチュウ「?!今向こうで音しなかった?」
グレイシア「行ってみましょう!」

バシャーモ「向こうか?!」
ヘイガニ 「よし!」

アルセウス「来たか…」
ピカチュウ「雷!」

ドシャーン

アルセウス「効かないな……」

アゲハント「ええ?!」

ヘイガニ「全く効いてない?!」

アルセウス「裁きのつぶて!」

ドガン!

コータス「町が壊れてく!」

グレイシア「シャドーボール!」

アルセウス「当たらん!」

オオスバメ「クッ!」

ピカチュウ「強すぎるよ!」

アゲハント「さっきと差が有りすぎる!」

アルセウス「亜空切断!」

グレイシア「ハッ?!」

ピカチュウ「グレイシア!」

ジュカイン「危ない!」

ドガアアアン!!

メスの皆 「キヤアアアアアア?!!」
オスの一部「ウワアアアアアア?!!」

残り2時間10分
賞金30万円

パート3（後書き）

アルセウス強すぎるね

（おい）

パート4（前書き）

最近眠い

パート4

ホワイトシティー

ピカチュウ「うう……………」

グレイシア「イタタタタ……………」

コータス「皆……………大丈夫？」

ピカチュウ「なんとか……………」

グレイシア「私も……………」

オオスバメ「う……………」

グレイシア「あれ？今オオスバメの声が……………って……………オオスバメ？！」

ピカチュウ「うわ、木に激突か……………」

コータス「若干めり込んでるし……………」

オオスバメ「サンキュー。」

ピカチュウ「あれでよく呼吸出来たね。」

コータス「それにしても……………さっきのはすごい威力だったね。」

グレイシア「グリーンタウンから一番離れているホワイトシティーよ、ここ。」

オオスバメ「とりあえず、アルセウスを探さないと……………」

ピカチュウ「そうだね。」

コータス「爆風だけでここまで飛ばされたんだ、注意しないと

……」

ヘイガニ 「イタタタタ……」

バシャーモ 「何だったの？さっきのは、」

アゲハント 「ここは……イエローシティね、」

ヘイガニ 「皆立てるか？」

アゲハント 「うん。」

バシャーモ 「アルセウスを探さないと、」

ヘイガニ 「だな。」

アゲハント 「作戦とかたてなくて大丈夫かなあ。」

バシャーモ 「そんなことやっている暇無いって。」

アゲハント 「あ、」

ピカチュウ 「でもグレイシア、よく無事だったね。直撃じゃあ無かったんだ。」

グレイシア「それが……私も直撃だと思っていたの……恐くて動けなかったから、どうして無事だったのかしら？」

なぜグレイシアは無事だったのだろうか……

ところで、皆さんは気づいていますか？

爆発に巻き込まれたポケモンが1匹足りていないことに……

……
そう、それは……

ジュカイン「ウウ……………」

他のポケモンが遠くに飛ばされたなか、ジュカインだけはグリーンタウンの森のなかにいた。

その訳は、グレイシアが直撃を受けなかったことと重ねるとわかると思う。そう、ジュカインは亜空切断が発射されてからグレイシアに直撃するその一瞬に庇いに入った。そのため、直撃を受けたのはグレイシアではなくジュカインだった。ほぼ爆心にいたためあまり遠くには飛ばされなかった。

ジュカイン「体が……動かない……」

ダメージも大きいらしく、かなり危険な状態になっていた。

「??1　「ツチ、3匹も赤い鎖が壊されたか……」

「??2　「しかし1匹アルセウスの攻撃で大怪我をおっ
ています。」

「??1　「何?フツならそいつに追撃しにいくか。」

「??2　「かしこまりました。N様。」

N　「プラズマ団が復活したことを教えてやろっじゃ

ないか。」

幹部1　「そうですね。」

ジュカイン「早くアルセウスを探さないと……」

N 「おやおや、随分大怪我しているね」
ジユカイン「誰だ?!」
N 「フツ。」

ジユカイン「グッ
ドガッ!

ドサッ……

ジユカイン「う……………く……………」

N 「僕の名前はNさ、よく覚えといてよね。お疲れ様。」
ジユカイン「……………」

N 「蹴り一発で倒れるとは、ダメージは大きかったんだね。」

ゲームマスター「……………全く、何で伝説のポケモンが……………？ミッ
ションにでもないかと町が壊されるよ……………はぁ。」

ピーッピーッピーッ！！

ゲームマスター「?!」

ゲームマスターが画面を見ると……………

逃走ポケモン1匹 異常有り

ゲームマスター「な?!こ……………これは……………」

ゲームマスターが情報を見ると……………

逃走ポケモンNo.03:ジユカイン

戦闘不能 ダメージ大

ダメージ履歴

パルキア 亜空切断 直撃

ゲームマスター「不味いな……ええと場所は……」

ピーッピーッピーッ!

「エラー」

ゲームマスター「な?!……クッ……情報を見る限り速くポケモンセンターに連れて行かなければ……エラーの原因を調べなくては、急がないと……」

パート4（後書き）

もはやコメディじゃなくなっている気がするんだけど……

パート5（前書き）

全然更新できない。

絶不調なり〜。

パート5

オオスバメ「いたぞ！」

アルセウス「諦めの悪い奴等だな。」

グレイシア「……全員で一斉に攻撃すれば壊れるはず……多分……」

ピカチュウ「行くよ！」

コータス「OK！」

ヘイガニ「合流できた！」

ピカチュウ「やっぱりだめか……」

オオスバメ「ん？不味い！」

グレイシア「何が？！」

オオスバメ「もうすぐイエローシティだ、倒しきれなかったら……」

……」

バシャーモ「今戦っている意味が無くなるってことね？」

コータス「離れるか？」

グレイシア「やむを得ないわね……」

逃走ポケモンは離れていった

アルセウス「フッ……ハンター放出！」
ハンターが現れ……起動した……

ピリリリリ

ヌマクロー「ミッション結果、うわぁ1体放出か……」

ゲームマスター「あーっもう！」

怪我人&エラーで堪忍袋の尾が切れたらしい。

ゲームマスター「私、堪忍袋の尾が切れましたっ！」

キュアブロッサムかよ……

ゲームマスター「何て言っている暇ないな……」

オオスバメ「クソッ、殺りきれなかった……」

オオスバメよ漢字が違うぞ

オオスバメ「作者が漢字苦手だからだろ」

ごもつとも

ハンター「……」
オオスバメ「あ！」

ハンターに気がつき凄スピードで飛び出した。

オオスバメ「結構速いな……」

ハンター「……」

オオスバメ「全力出した方がいいかな？……って、あれ？」

ハンター「逃げられた。」

オオスバメ「ハンターどこいった？」

50%の力で逃げ切った。

グレイシア「……ねえ。」

ピカチュウ「何？」

グレイシア「今思ったんだけど……さっきアルセウスに飛ばされたあとジュカインを見ていないような……。」

ピカチュウ「言われてみれば……絶対すぐに戻ってくるよね。ジュカインなら……」

逃走ポケモンも違和感に気がつく

ゲームマスター「駄目だ！」

先ほど堪忍袋の尾が切れたゲームマスター

ゲームマスター「こんなことになるなんて……と言っか何でゲーム関係者じゃない者がハンター放出を可能にする？」

ゲームマスターはかなりイラっている

ゲームマスター「海より広い私の心もここらが我慢の限界だ！」

何故プリキュアの真似をする？

ゲームマスター「知るか！作者が勝手に言わせているんだよ！」

あ、ばれた？次はキュアブラックの真似する？

ゲームマスター「殺すぞ？」

冗談です。

ゲームマスター「あーっもう！……………やむを得ない、こうなった
ら……………」

ピリリリリリ

ピカチュウ「あ、メール。」
バシャーモ「一体なに？」
オニゴーリ「確保か？」

エネコ「ハアツ?!」
アゲハント「冗談でしょ?!」
グレイシア「信じられない！」
ヘイガニ「馬路か?!」

メールの内容それは……

パート5（後書き）

ありえないメールの内容は？

次回はなるべく早く更新を……
精一杯頑張るわ。

（見る人ほとんどいないけど）

S・O・S（前書き）

今回ぐらいからゲストの方の登場回数が増えてきます。
途中呼び捨てになるかもしれませんが、ご了承ください。

k 「と、いうことが有ったそうです。」

刑事 「しかし、犯人は何のためにそんなことをしたんですか？」

k 「解りません……………」

あ、いい忘れていました。kさんは、この小説内では町中の警部です。

刑事2 「大変です!!」

k 「何ですか?!今会議中ですよ!」

刑事2 「そんなことを言っている場合ではありません!王国に時空伝説に出てくるポケモンが……………」

k 「本当ですか?!」

刑事2 「こんなことで嘘なんてつけませんよ!」

オオスバメ 「何なんだ?!このメールは!ガセネタか?」

バシャーモ 「さすがにガセネタではないと思うけど……………」

ヘイガニ 「じゃあ何なんだよ!このメールは!」

グレイシア 「ほんとのこととしか言いようが……………無い……………」

コータス 「でも何で強制失格?しかもジユカインか?」

ヘイガニ 「知るか!」

メールの内容は

ジユカインは強制失格となった

だった

グレイシア「ハンターを攻撃したとか？」

ピカチュウ「そんなルール破る性格じゃないよ！」

バシャーモ「規定の高さより高くジャンプしたとか？」

オオスバメ「それはかえって目立つからやらないだろう。」

一同 「いったい何が原因？」

ピリリリリリ

ヘイガニ 「うお?!」

グレイシア「何?!」

オオスバメ「ミッション3……」

バシャーモ「もう?!」

エネコ 「ジユカインにアルセウスの攻撃が直撃したため」

ヌマクロー「ダメージがかなり蓄積している」

カメール「場所を特定してもエラーが出てしまい、」

ピカチュウ「場所を知ることができない。」

アゲハント「ジユカインを見つけ、ポケモンセンターに連絡をしてもらいたい。」

コータス「なお、このミッションを成功した瞬間、」

オオスバメ「タイマーが止まり、休憩に入るので頑張ってほしい。」

グレイシア「って……………」

ピカチュウ「何か大変なことになってるんだけど……………」

オオスバメ「強制ミッションでは無いけど……………」

一同「それ以前の問題じゃん！」

オニゴーリ「何か不味いことになっているな……………」

オニゴーリに近づく黒い影……………

オニゴーリ「行くしかないな……………」

ハンター「！！！」

オニゴーリ「?!しまった!」

ハンターは神出鬼没

いつ どこから現れるか解らない

パン

ハンター 「確保」

オニゴーリ「クソッ！こんなときに！」

ピリリリリリ

エネコ 「ん？」

オニゴーリ確保

カメール 「サトシのポケモン初めて捕まったね。」
ヌマクロー「タケシのポケモンは僕だけなのに」

グレイシア「とりあえず別れましょう。」
オオスバメ「だな。集団でいると目立つ。」
ピカチュウ「ジユカインも探さなきゃね。」

グレイシア（私が無事だったのって……まさか……）

ヘイガニ 「あの爆風を受けたんだ、多分遠くの方だろう。」
バシャーモ 「遠くの方だと思うけど……」

ほとんどの者が爆発地点から離れていく。しかし、ジュカイ
ンがいるのはグリーントウン。爆発地点のすぐ近くだ。

オオスバメ 「いくらあの爆風でも……直撃だったら……」

一匹だけグリーントウンの方に向かうオオスバメ。

ハンター 「……！」

オオスバメ 「ん？ チッ またか！」

13秒後

ハンター 「逃がした」

オオスバメ「あれ？」

全力で飛んでないのに簡単に振り切った。

その頃、イエローシティ

ハンター 「……………」 まだ誰も確保していない

エネコ 「うゝん？どこだろ、ってハンターだ！」

ハンター 「あ、逃走者だ、こんにちはゝ」

エネコ 「?!……………まっいつか！こんにちはゝ！」

ハンター 「大変そうだね」

エネコ 「うん。でも何で確保しないの？」

ハンター 「ああ、人数足りずにエキストラでやったんだけど、やる気無いんだよねゝ」

この1匹と1体は自分の立場を理解していない。

アゲハント「どこ行っただろう?」

ブルータウンを探すアゲハント。

アゲハント「てゆうか、逃走中で怪我人って……まさかと思っけどゲームマスターが考えて無かったことが有ったのかな。」

物わかりがいいね

アゲハント「で、町の被害を減らすために私達を利用……」

正解だよ〜ん

アゲハント「……………」

アゲハント（この作者め……後で皆に言おう。）

残り時間 1時間45分

賞金 45万円

S・O・S (後書き)

若干コメディらしく・・・なっ
たかな？

パート1（前書き）

ポケットモンスターってやっぱりAGが一番好き

パート1

N 「あーあ、しばらく休憩しよう。」

幹部1 「お疲れ様です。」

N 「ん……ダークピカチュウがいないと仕事が早く進むよ。」

幹部2 「全くです。」

この小説ではダークピカチュウさんはポケモンホイ
トの主人公的存在です。

つまり、今現在のNの敵ということです。（もう少しいい
言い方しろよ）

アゲハント「まったく、何なの？このミッション。失敗してもデメリット無いような書き方してるけど結構デメリット有るって。」

ピカチュウ「制限時間無さそうで有るよね。これ……」
グレイシア「生命の制限時間ってこと？」
ピカチュウ「うん。」

ヘイガニ 「ふざけるなよ、このミッション！」
コータス 「失敗したらどうなるのかな？」
ヘイガニ 「とりあえず、ヤバイだろうな。」

オオスバメ「あれ？ハンターどこいった？」

ハンター1（またオオスバメに逃げられた……）

ハンター2（さっきオオスバメに逃げられた……）

ハンター3（またかよ）

ハンター同士で連絡をとっているようだ。

ハンター3（合計で何回オオスバメに逃げられたんだ？）

ハンター1（俺3回）

ハンター2（俺2回）

ハンター3（俺1回）

ハンター1（6回も……）

ハンター2（しかも絶対本気じゃないよな？）

ハンター3（ああ、）

ハンター1（てか、ハンター4と連絡とれないんだが……）

エネコ 「でさあ、それが凄くてね！」

ハンター4「それは大変だったね。」

おい、ハンター4よ、真面目にやれ。

ハンター4「やだ。」

（これからハンターに番号付けます。それと、スリーナの書くハンターは思考が有ります。）

ゴンベ 「お腹すいた。」

カメール 「ハハハ……。」

ハンター3「!!」

カメール 「あ！」
ゴンベ 「ハンターだ！」

2匹は走り出すが、差は縮まるばかり……

カメール 「ゴンベ、ごめん！」

カメールはスピードを上げた

ゴンベ 「え?!」

パンツ

ハンター3「確保」
ゴンベ 「捕まった。てか、全然出て無いよ、僕」

カメール 「ごめん……」

カメールは逃げ切った

ピリリリリ

ピカチュウ「うわぁ、ゴンベ確保か……。」

グレイシア「確保スピードが上がってる。」

ダークピカチュウ「なんだ?!この状況は!!」

ダークピカチュウさんが見たのは壊れたイエローシティ

ダークピカチュウ「……………?」

後ろを見ると、アルセウスが時空の穴に入って行こうとしていた、

ダークピカチュウ「あいつか……………」

アルセウス「……………」

ダークピカチュウ「逃がさない!いけ!ゼクロム!」

ゼクロム 「よつと。」

ダークピカチュウ「シャドーボール！」
ゼクロム 「ハアアアアア！」

ドカーン！

アルセウス「……………」 気絶

ダークピカチュウ「よしっ」
ゼクロム 「って、こいつアルセウスじゃね?!」
ダークピカチュウ「いやあ、町を破壊していたからつい……………」

パート1（後書き）

アルセウス気絶〜

（何か恨みでも有るのか？）

パート2（前書き）

物凄く更新遅れた！

パート2

オオスバメ「クソッ、ジユカインどこだ？」

ピカチュウ「あ！オオスバメー！」

オオスバメ「おピカチュウ！」

ピカチュウ「ここ爆心付近だよ？ここには居ないんじゃない？」

オオスバメ「直撃だったらそこまで飛ばされないんじゃない？」

ピカチュウ「あ…」

ゲームマスター「疲れた。」

キーボード叩きまくり、疲れたらしい。

ゲームマスター「ぶっちゃけありえない」

キュアブラックだ！

ゲームマスター「いい加減にしろ」

ヤダ

ゲームマスター「……」

ヘイガニ 「いない！」

バシャーモ「何処?!」

グレイシア「見つからない！」

オオスバメ「……！」
ピカチュウ「いた！」

ジュカイン「……………」

オオスバメ「おい！」

ピカチュウ「大丈夫？」

オオスバメ「ピカチュウ、ポケセンに電話！」

ピカチュウ「あ…解った！」

ピカチュウ「もしもし！すみません！救急車お願いします！場所？
場所は…」

オオスバメ「たった一撃でここまでなるとは…」

ピカチュウ「連絡したよ！」

オオスバメ「サンキュー。」

ピリリリリリ……

ヘイガニ 「ミッシェンクリア！」

バシャーモ 「これより3時間の休憩！」

グレイシア 「良かったぁ……」

オオスバメ 「牢獄でも行くか？」
ピカチュウ 「うん……疲れた。」

パート2（後書き）

休憩開始します

パート1（前書き）

今から、牢獄内のポケモンには が付きます。

あと・・・更新遅れました！！ごめんなさい！！

パート1

オオスバメ「ヤッホー！」

フシギダネ「全ミッション参加のわりに疲れてないね。」
オオスバメ「？」

ピカチュウ「今までハンターを8回振り切ったらしいよ。」
牢獄メンバー「はあ?!」

エネコ「あれ？ハンター動かなくなっちゃった。」

ヘイガニ「何やってんだ？エネコ……」
バシャーモ「ほつとこうよ。」
グレイシア「そうだね」

ルンパッパ「で？ジユカインは大丈夫なわけ？」
オオスバメ「ああ、命に別状はないって。」
ウソツキー「あつたら、この小説コメディーじゃなくなるでしょ、

「オニゴーリ「まあ、無事ならよかったじゃん。」
一同「あれを無事とは思わないと思う。」

ポケモンセンター

冬来雪亜「チラチーノ、オレンの実。」
チラチーノ「了解!!」
冬来雪亜「それにしても・・・ひどいケガ。」
チラチーノ「ほんと。」

冬来雪亜さんは、ポケモンセンターの看護師です

ジュカイン「う……………」
チラチーノ「気がつきました?」
ジュカイン「ここは?」
チラチーノ「ポケモンセンターです。」
冬来雪亜「オオスバメとピカチュウが連絡をくれたんです。」
ジュカイン「……………」
「そうか。あ、看病ありがとうございます。」

牢獄前

エネコ 「ヤッホー!!!」

ピカチュウ 「元気だね。」

ヘイガニ 「まったくだ。」

バシャーモ 「相変わらずと言つか……………」

ピリリリリリリリリリ

ピカチュウ 「はい。もしもし……………」

ウソッキー 「電話？」

ピカチュウ 「え……………本当ですか?!」

コータス 「どうした？」

ピカチュウ 「ジュカインの意識が戻ったって!!!」

皆 「よかった」

ピリリリリリリリリ

オオスバメ 「メール？」

グレイシア 「ただいまから、牢獄の場所を、ポケモンセンター内に変更する。」

カメール 「ついでに、今から30分後、そこで、ミニゲームを行う。」

ピカチュウ 「できる限り、早く集合せよ!!!」

オオスバメ 「じゃあ、行くか、ポケセンに。」

ヘイガニ 「ああ。」

パート1（後書き）

次回はなるべく早くします!!!

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0739s/>

ポケットモンスターAGのポケモンで逃走中

2011年11月9日22時17分発行